

【3月19日（火）6年生修了式の話】

6年生のみなさん、いよいよ明日は6年間の小学校生活を終えて、この草平小学校を卒業します。

真新しい大きなランドセルを背負って、長い道のりを通学団で登校した日を、覚えているでしょうか？

あれから6年。家族や先生、地域の方に見守られここまで来たことを、決して忘れないでくださいね。皆さんの背中には、幼稚園や保育園、1年生から6年生までの担任の先生、関わってくれた先生、地域の人……。たくさんの人からいただいたものを背負っているのです。

先生は1年だけの関わりでしたが、6年生としての皆さんの姿に、時にはそのパワーに驚かされたり、時には残念な気持ちになったりしましたが、校長先生として見守ってきたつもりです。

先生は、保健体育が専門です。中学校にも17年間勤めました。たくさんの中学生を見てきました。その上でこれから中学生になるみなさんにどうしても伝えたいことがあります。とても大切なことなのでしっかりと聞いてください。

これは、何という字でしょう。そうです。訓読みだと「生きる」、音読みだと人生の「せい」、一生「しょう」とも読みます。英語だと「LIVE（ライヴ）」と読みますね。では、この字に心をあらわす「立心偏」をつけるとどうでしょう？性格、性別の「せい」や根性の「じょう」とも読みます。英語だと「SEX（セックス）」になります。ここで、にやつている人がいたら、気持ちをリセットしてください。まじめな話なのです。

これからみなさんは、「思春期」という時期になります。体も大きく成長し大人の体に近づきます。でも心の成長は、体の成長ほど早くなく緩やかで、そのバランスがとても不安定な時期になります。大人の体になっていくというのは、「新しい命を作ることができる」ことにもなります。心は、好きな人ができたり、その人と一緒にいたいというようになるでしょう。また、性への関心も高くなり、キスをしたり、セックスをしたりしたいと思うようになるかもしれません。それはとても自然なことかもしれません。

ただ、ここでよく考えてくださいね。それを実際に行動に移すかどうかは、立ち止まらなければならないところです。セックスをするということは、「妊娠」という新しい命

を誕生させることと切り離しては考えられません。たった一度の間違った判断で、新しい命が誕生してしまうこともあります。そうなったとき、どんなことが起きるか想像してみてください。中学生で望まぬ妊娠をしてしまったら。育てられないので、赤ちゃんは病院で手術をして墮ろすことになります。何十万という費用がかかります。その費用をどうやって出しますか？

女の子、望まぬ妊娠、つらい手術、一生残る心の傷。あなたは、耐えられますか？男の子、肉体的には傷は付きませんが、その大好きな女の子に負わせた体と心の傷に、責任をとることはできますか？そして、闇に葬られた赤ちゃんの命は？一時の気持ちで間違った判断をし行動してしまうと、誰も幸せになることはできません。

本当に好きな人との赤ちゃんを授かるのは、まず自分自身が自立し、相手を大切にでき、責任をとることができるようになってからだと思います。自分も相手も周りの人も、みんなに祝福されて迎えられる赤ちゃんの誕生は、みんなを幸せにします。

なぜ、校長先生がこんな話をあなたたちにするのか。それは、自分自身を、そして自分の周りの人を大切に生きてほしいからです。

「性」という字には「こころ」を表す立心偏（りっしんべん）がある意味を考えてください。性について真剣に考えることは、生きることを真剣に考えることにつながるのです。

先生は、草平小学校の6年生全員が、中学校に進んで、自分自身の進路について考え、その先の進路で自分の夢を叶えてほしいと願っています。そのために、これからの中学校生活の中で、「今できること」に取り組み、「今やらなければならないこと」から逃げず3年間を過ごしてほしいと思います。

修了式の話としては内容がそぐわないかもしれませんが、どうしても伝えたかったので話をさせていただきました。

明日は、周りの人たちに心から感謝しながら、胸を張ってこの草平小学校を卒業して行ってください。

先生のお話を終わります。